

# 赤星

月刊 2月2004年 No.32 (通巻374号)

本号300円 (毎月1日発行)  
年間購読料 1部3000円 (送料別)  
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262  
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975  
発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

紙面案内

- ① STOP!イラク派兵
- ② 燃やせ!反戦の炎
- ③ 派兵反対闘争/三里塚/全世界を  
変革し獲得するために
- ④ 山谷/越冬・越冬/全協集会

お知らせ 次号は3月10日発行です。



1. 18日雇全協総決起集会の後山谷を席卷した300人のデモ



1. 25自衛隊のイラク派兵反対集会(東京・日比谷野音)に約6千人結集

# STOP!イラク派兵

## 止めよう!参戦 終わらせよう!占領

### STOP!自衛隊のイラク派兵 - 参戦 END!イラク・パレスチナ - 全地域での占領

自衛隊のイラク派兵による、日本は紛れもなくイラク戦争の参戦国。「戦争書教演説から引用」と「戦争する国」になった。小泉政権は、このイラクへの派兵によって本質的には、日本人をイラク戦争に参加する当事者に、また米国の占領政策の片棒をかつく侵略者の側に立たせたと云える。レバノン紙アル・ムスタクバル(12・1付)は、「日本がアラブの国の占領に加わる利益は何か」「アラブ世界は日本に敵対したことはない。なのになぜ、いま日本はアラブ・イスラム世界に敵対しようとするのか」と問うている。

自衛隊のイラク派兵は、①アメリカの石油強奪のための侵略戦争に加担し、その分け前にあずかることを意図した参戦である。②占領軍の一員になり米軍などの「占領支援」を行い、③海外派兵や、武力行使を禁じた憲法違反は明らかである。

いつの時代も、戦争に加われば国家に対して中立的な立場など存在しなかった。戦争支持か戦争反対か一人一人がどちらかを選ばねばならない。反戦の声を挙げず沈黙し派兵の既成事実化に傍観して戦争に駆り立てられていったかつての過ちを再び繰り返してはならない。反戦の立場を貫き時流に抗う反逆者たれ!

いま世界は、アメリカ・ブッシュ政権による「テロとの戦い」を名分(偽りの口実)にした戦争の脅威にさらされている。全世界の労働者人民は、この戦争とグローバリゼーションという二つの脅威に立ち向かい「究極の危険の影におびえながら暮らすことを拒否する」(ブッシュの1・20一般書教演説から引用)と、世界で最も危険な戦争屋ブッシュに対して言っている。なければならない。

「テロとの戦い」を掲げる「米国の安全のために戦争が唯一の回答だ」と信じ込んでいるブッシュ政権、そして英国のブレアとともに米国の片棒をかつぎイラクに派兵し参戦した小泉政権こそ世界の民衆を脅威にさらす「悪の枢軸」と呼ぶにふさわしい。この悪党どもに問わなければならないのは、「たぐさんの労働者が失業に苦しむ路頭に迷っているのに、なぜ、軍事費やイラク占領に、巨額の税金を使うのか」ということだ。

「イラクは大量破壊兵器を保有していなかった」「もともと存在しなかった」と米議会で証言した前調査団長ラビット・ケイの発言は、今秋大統領選を控えたブッシュに大きな衝撃を与えた。窮地に立たされたブッシュは「私も事実を知りたい」とほげ、英首相ブレアは「戦前は間違っていたと思わなかった」とすねた。

イラクの調査で発見されたのは、大量破壊兵器などではなく、ブッシュやブレアの大嘘であり、偽りの口実(大義名分)で世論を欺いた戦争には正当性が全くなかったという事実であった。そして、ブッシュが石油を強奪するために「脅威」をでっち上げて戦争をしかけ、イラクの罪のない人々を大勢(1万人とも2万人とも言われる)殺りくしたということがあらためて裏付けられたと云える。存在しない兵器を口実に戦争をしかけ人々を殺りくしておいて、「復興支援」というのは、窮極の「マッチ・ポンプ」である。これが帝国主義の本性に他ならない。脅威とされた大量破壊兵器がイラクにはなかったことは誰の目にも明らかだ。それなのに米軍はなぜイラクにいるのか。イラクに民主主義をもたらすと言っのなら、なぜ米軍は占領を止め直ちに撤退しないのか。

日本政府がどう強弁しようが、「イラクでは戦争が続いている」事実を米占領軍自身が認めている。イラク民衆にとっては、自衛隊が米英などと同様に占領軍の一員であることに変わりはない。自衛隊がやっていることは「復興支援」などではなく米軍などの「占領支援」と見なされている。日本帝国主義には、グローバル化する独占資本(多国籍企業)の利益のために、アメリカとの同盟関係の下に世界のどこへでも軍事展開できる(戦争できる)国にしていくという国家戦略がある。今回のイラク派兵は、紛れもなくその初のモデルケース、具体化として位置付けられているのだ。

イラク派兵し参戦の既成事実化を許すことは、改憲や愛国主義・新国家主義に弾みを付けさせることを意味する。派兵に反対し参戦を止めさせ占領を終わらせるために、怒りをたぎらせ連帯してイラク反戦運動に立ち上げられ、3・20世界同時反戦行動・東京10万人結集へ!



# 派兵反対の声を3・20世界同時反戦行動へ

## 有事関連法案・共謀罪成立を許さない広範な大衆行動を!

### 自衛隊派兵承認案 強行採決弾劾!

自衛隊のイラク派兵が開始された。航空自衛隊は既に1月末までにクウェートに入り、2月7日には陸上自衛隊第1旅団(約90人)がイラクに入り、第2陣以降の主力部隊は2月下旬から3月にかけてイラクに入るという方針だ。日丸をつけた重武装の部隊が装甲車で登場し、要塞まがいの陣地を構築する姿は、戦地への派兵そのものでありイラクの民衆から見れば、紛れもなく占領軍の一部にほかならない。

小泉政権は1月30日、衆院イラク特別委員会を質疑を二方向に打ち切り、自衛隊派兵承認案を強行採決した。2月1日には小泉が、旭川の陸自司令部で行われた本隊の隊旗授与式の中で日米同盟が何よりも重要と強調し、まさに「復興支援が米帝のイラク侵略戦争への加担と参戦である」とを表明したのである。

かかる暴挙にマスコミの多くは「報道規制」を追認することで「大本営発表」の広報機関と化したも同然の有様だ。一方で自衛隊先遣隊の役割に「サマワは派兵を歓迎している」との報道向けの演出が指弾されてきたことが暴かれるなど、いかに今回の派兵が嘘と欺瞞に満ちたものかが次々に明らかになっている。

こうした状況の中、民衆の怒りや憤り、危機感が高まってきている。反戦闘争実はこの間、12月28日、1月17日、24日、と3回にわたって新宿、渋谷の駅前で自衛隊イラク派兵反対の情宣を取り組んだ。これまで

この間、各地で集会やデモ、新聞への意見広告などが行われ、派兵反対の声が高まりつつある。1月11日には文化人らが緊急に呼びかけた「アクション11」(1時11分に全国一斉に音を出して反戦をアピールする試み)の東京集会・デモには日比谷公会堂に1800人、1月17日には意見広告運動呼びかけの防衛庁へのデモに4500人、1月25日には、WORLD PEACE NOW呼びかけの「もう戦争はいらない私たちは自衛隊のイラク派兵中止を求めます」集会には日比谷野音に6000人が集まった(パレスチナの旗を掲げてデモを貫徹)。

いずれも個人での参加が目立ってきている。この高まりを3・20世界同時反戦行動「日比谷公園の大集会へ」と上りつめていくことが今春の最大の課題だ。自衛隊イラク派兵反対のうねりを、占領反対・パレスチナ連帯を鮮明にした「インターナショナルな連帯行動とデモを闘い抜いた。」



2・8 自衛隊イラク派兵反対闘争に決起! 宮下公園から渋谷をデモする反戦闘争実の隊列。

### 2・8 反戦闘争実 渋谷デモに決起

2月8日には、反戦実行委の呼びかけで「イラク派兵反対/2・8反戦集会」が渋谷・宮下公園で行われ約60名が結集した。連帯のあいさつでは、アジア共同行動(AWC)日本連帯共同代表の斎藤一雄さん、破防法・組対法に反対する共同行動、日韓ネット、沖縄・一坪反戦地会関東ブロック、反資本主義行動(AC)などからなされ、米国のANSWERから「日本の自衛隊イラク派兵反対運動への連帯メッセージ」が、AWC韓国委員会の「2・8集会激励メッセージ」、沖縄・一坪反戦地会北部ブロックのアピールがそれぞれ読み上げられた。反戦実各団体の決意表明を経て渋谷の繁華街を「自衛隊派兵許すな!」を力強く訴えデモを闘い抜いた。

この間、各地で集会やデモ、新聞への意見広告などが行われ、派兵反対の声が高まりつつある。1月11日には文化人らが緊急に呼びかけた「アクション11」(1時11分に全国一斉に音を出して反戦をアピールする試み)の東京集会・デモには日比谷公会堂に1800人、1月17日には意見広告運動呼びかけの防衛庁へのデモに4500人、1月25日には、WORLD PEACE NOW呼びかけの「もう戦争はいらない私たちは自衛隊のイラク派兵中止を求めます」集会には日比谷野音に6000人が集まった(パレスチナの旗を掲げてデモを貫徹)。

いずれも個人での参加が目立ってきている。この高まりを3・20世界同時反戦行動「日比谷公園の大集会へ」と上りつめていくことが今春の最大の課題だ。自衛隊イラク派兵反対のうねりを、占領反対・パレスチナ連帯を鮮明にした「インターナショナルな連帯行動とデモを闘い抜いた。」

## 1・11三里塚旗開き 敷地内デモ勝ち取る

1月11日、三里塚現地に於いて新年デモと04年団結旗開きが行われた。午前中は、開拓道路で反対同盟先頭に約100名が結集して集会が持たれた。伊藤信晴さんが反対同盟の2004年闘争宣言を読み上げる。「新年を迎え、反対同盟はますます意気高く闘い抜いていく。成田空港民営化の

ための暫定滑走路延長攻撃を粉碎し、成田空港を使わずに自衛隊のイラク出兵と総力をあげて闘う決意である」との力強い闘争宣言を全員で確認。続いて北原敏治事務局長が、反対同盟38年の闘いの意義を述べ、派兵阻止闘争と国際連帯を訴えた。顧問弁護団の葉山岳夫さんのあいさつ。各支援

戦運動の命運がかかっている。反戦闘争実の闘いの地平をふまえて3・20に大胆な共同行動を創り出すことをステップにして有事法・治安法・改憲攻撃と対決する広範な大衆行動を構築することが今こそ求められている。小泉政権は、国会において「国民保護法案」をはじめとした有事関連7法案の提出を決定した。さらに「外国為替法改定法案」や「特定外国船舶入港禁止法案」を織り込んだ「経済制裁法案」、「共謀罪」再上程をはじめとする治安関連法案も目白押しである。反帝・反戦・反強権の旗幟を鮮明に、3・20世界同時反戦行動を成功させるべく全力で立ち上がる。

「自衛隊イラク派兵NO! STOP有事法制?」13大集会(午後6時半・明治公園)、2・29「3・1朝鮮独立運動85周年イラクにも朝鮮半島にも平和を!」集会(午後1時・上野公園水上音楽堂)に結集を、今こそ街頭へ!

# 全世界を変革し獲得するために

## 我々の理念と政治路線

### 怒りに火を付け 闘いの炎を燃やせ!

いま世界は、時代が大きく変わる節目、大いなる時代の過渡期・転換期にあると言え。情勢がドラスチックに変化する時には、往々にして、闘争主体が情勢の後追いにあくせくしたり、ついて行けなかったりする。

希望・理想・情熱 怒り・連帯・解放

我々共産主義者同盟の目的は、帝国主義を打倒し、資本のくびきに虐げられた人々・プロレタリアートを搾取と抑圧から解放することである。これが我々に課せられた歴史的な使命である。したがって、スターリン主義に歪められ破綻した旧ソ連型「疑似社会主義国家」を再び建設するためには、我々共産主義者は、プロレタリア民衆の最深部にある怒りに火を付け、自らを解放する闘いの炎をどこまでも燃やし続けていく。虐げられし者・プロレタリア民衆と共に怒り共に苦しみを帯びることによって、それを振り所に大衆行動を前進させ、労働者階級に深く根を下ろした革命的階級闘争を建設する。共産主義者として、心に革命への情熱と希望の火を絶やさず、理想と怒りに燃えて、団結を力に全世界を変革し獲得するまで闘っていく。

この使命を果たすために、我々共産主義者は、プロレタリア民衆の最深部にある怒りに火を付け、自らを解放する闘いの炎をどこまでも燃やし続けていく。虐げられし者・プロレタリア民衆と共に怒り共に苦しみを帯びることによって、それを振り所に大衆行動を前進させ、労働者階級に深く根を下ろした革命的階級闘争を建設する。共産主義者として、心に革命への情熱と希望の火を絶やさず、理想と怒りに燃えて、団結を力に全世界を変革し獲得するまで闘っていく。

希望と理想と情熱に燃える赤いミリアントたちよ、戦争とプロレタリアムに抗う奮起逆者たちよ、搾取と抑圧に怒りたぎらせ連帯し解放を求めろプロレタリアたちよ、プロレタリアにインターナショナルに全世界を変革し獲得する共産主義者たれ!

希望と理想と情熱に燃える赤いミリアントたちよ、戦争とプロレタリアムに抗う奮起逆者たちよ、搾取と抑圧に怒りたぎらせ連帯し解放を求めろプロレタリアたちよ、プロレタリアにインターナショナルに全世界を変革し獲得する共産主義者たれ!

希望と理想と情熱に燃える赤いミリアントたちよ、戦争とプロレタリアムに抗う奮起逆者たちよ、搾取と抑圧に怒りたぎらせ連帯し解放を求めろプロレタリアたちよ、プロレタリアにインターナショナルに全世界を変革し獲得する共産主義者たれ!

希望と理想と情熱に燃える赤いミリアントたちよ、戦争とプロレタリアムに抗う奮起逆者たちよ、搾取と抑圧に怒りたぎらせ連帯し解放を求めろプロレタリアたちよ、プロレタリアにインターナショナルに全世界を変革し獲得する共産主義者たれ!

希望と理想と情熱に燃える赤いミリアントたちよ、戦争とプロレタリアムに抗う奮起逆者たちよ、搾取と抑圧に怒りたぎらせ連帯し解放を求めろプロレタリアたちよ、プロレタリアにインターナショナルに全世界を変革し獲得する共産主義者たれ!

# 労働行政と元請けゼネコンの根幹を撃つ 朝日建設争議の勝利と団結を

荒木 剛

朝日建設による労働者虐殺と東京都市による公園一掃計画という、文字通り「黙っていたら殺される」という攻撃のたまた中で闘い抜かれた山谷越冬闘争。日雇全協反失業総決起集会は、労働者の誇りと尊厳を奪い返し、闘い取る布陣を打ち固めた。

「飯場層の仲間との合流を勝ち取る」を合言葉に越冬期に集中して取り組まれた朝日建設被労働者発掘、聞き取りは、新たに6名の仲間との合流を勝ち取った。朝日建設グループ企業が未だに存続し、そこで働いた被害労働者の記録が存在しているにもかかわらず、労基署は当初、「企業活動はしていない。書類はない」と証明できない。書類はない「働いたことは証明されない」という状況は「雇用証明書がないから賞金は倒産時点で」と、不誠実にして怠慢そのものの対応であった。交渉を通じて労基署に調査をさせたことで、すべてが追及の通りであったことが明らかになったのだ。

1月19日には、前日の全国集会から残った大阪の仲間も合流して元請けの一つである鉄建との団結が勝ち取られた。鉄建の担当者「労基署に言われた額(1カ月分)を支払います」と答えたが、「働いたのは2カ月だ」との被害労働者の追及が続き、怒りが過激な中で交渉継続を約束させたのであった。

朝日建設争議の現状は、越冬期に出会った被害労働者を要しなから、住み処(テント小屋経営)や仕事の登録行動でつながりながら、朝日建設グループ企業との交渉は、事態発覚まで86件もの相談が寄せられていたにも関わらず、賞金支払いを形式的に指導するだけで、発覚後も元事務所・宿舍を訪ねることもなく、警察に言われるままの資料(雇用契約書も存在、単価は9000円と明記、グループ企業は現在も活動、労働者の申告した労働実態の記録も存在)で対応してきた労基署、調査活動の末に元請けの支払い責任を追及されるや、労基法(賞金請求や労災申告は2年制限)をタテに拒否してきた元請けの問題がある。

労働者の権利が踏みにじられ、あけくは殺されていくという事態に無責任を決め込むこうした対応を、徹底して暴き、追及し、社会化していかなければならない。もう一方で、昨年末に明らかになった東京都の公園一掃計画に抗する闘いが開始された。当該地域の上野・隅田公園での奇り合いの上で2月3日、台東区交渉が取り組まれた。この間、都は財源確保を含めて計画を23区との共同事業として企画、特に台東、渋谷、新宿区の賛同を取りつけるべく事前会合を重ねていることが明らかになった。

この現状に対し行動の第一弾として台東区交渉が2月3日、60名の結集で勝ち取られた。都の計画にある「テント層は生活費は満たされている」というデマの根拠については、区側は「(我々の指摘に)『言われる通りです』と答えるを得ず、都の目論みの一角を切り崩すことができた。ただし都は、石原の「目に視える形でテントを減らせ」に併せてテッチ上げた「作文」をもって単独実施も射程にしての腹積りであることを見逃してはならない。

テント層の仲間の中に拠点を築き、飯場・流動層と「団結の芽を育てる」中で、労働者の誇りと尊厳を奪い返し、闘い取る布陣を打ち固め、反戦・反クローバリスムの闘いを通じて、朝日建設争議と公園闘いに勝利していきよう!

## 反失業・反排除の布陣固め 山谷越冬闘争打ち抜く

03-04山谷越冬闘争は、18日28日から1月5日の朝まで、東京都城北福祉センター前の路上を炊き出し拠点に闘い抜かれた。全国から米や食材、三車塚反対同盟からの野菜、さらには衣類や毛布などのカンパが集中し、連日の取り組みを支える。越冬美スタツフには初めて参加する仲間も含めて多くの労働者が結集し、泊まり込み態勢で炊き出しをはじめ数々の行事をともに担った。

今回の越冬・越冬闘争を通じての大きな成果は、朝日建設における3名の労働者虐殺という事態に対し、朝日建設争議団行動として昨秋から山梨現地闘争を含めた取り組みの地平をふまえて、新たな被害労働者の合流を勝ち取ったことだ。

「朝日建設と関係業者で働いた仲間と共に争議に起ろう」と、働いて賞金をもらってない仲間がきこりて支たせよう」との呼びかけをもち、この日は引き続き「山谷 やられたらやりかえせ」を大きなスクリーンで野上上映。たき火で暖を取りながら多くの仲間が最後まで映画に集中し、有意義な取り組みとして終えることができた。

越冬期間中は、センター前の炊き出しと寄り合いを軸に、上野、隅田川、浅草パトロール、医療相談(隅田川)、恒例のもちつき大会(センター前、隅田川、なぎさ寮、上野公園、新宿中央公園)や水族館劇場と山谷の玉三郎による路上芝居「絆牡丹お竜」、路上ライブのメンバーによるラップの演奏、イギリスの労働運動を描いた映画「ブラス」の上映なども行われ、盛り上がった。また上野公園や浅草駅前での情宣活動では、多くの通行人からカンパが寄せられた。

越冬闘争の成果を打ち固め、朝日建設の元請けと労働行政に迫り、東京都の公園一掃・排除除動を許さなず、山谷から反戦・反失業・反クローバリスムの闘いを前進させていこう。

## 「斃れた仲間を闘いの中で生きる」 1.18山谷現地闘争に決起

1月18日、佐藤満夫さん虐殺19周年弾劾/山岡強一さん虐殺18周年弾劾/朝日建設労働者3名虐殺弾劾/自衛隊イラク派兵反対/日雇全協反失業総決起集会が山谷・玉姫公園で、全国から約300名の結集をもって勝ち取られた。

晴れた冬の空の下、山谷、寿、笹島、釜ヶ崎、渋谷、新宿など各地で越冬・越冬闘争を闘い抜いた日雇・野宿労働者、支援者が続々と玉姫公園に集まり、午前9時半過ぎから集会が開催された。冒頭、司会の

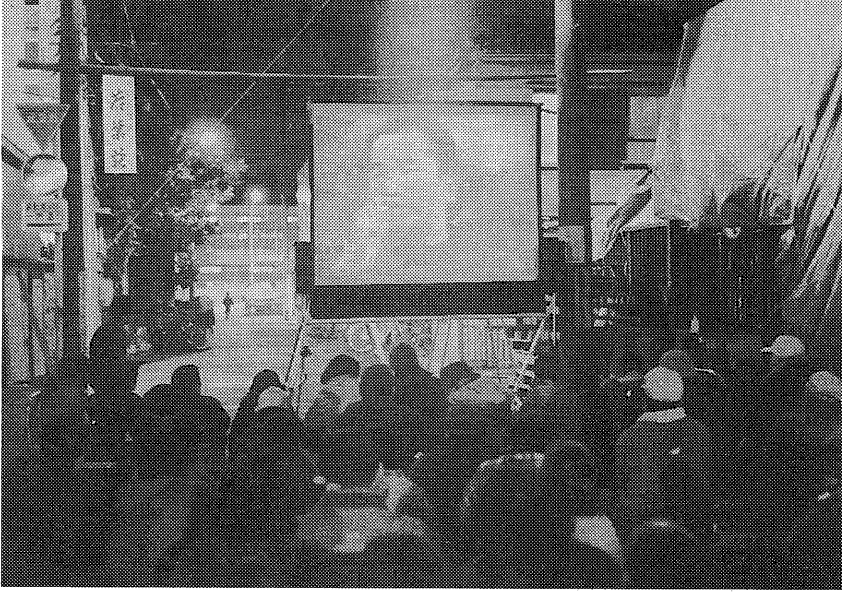
里塚反対同盟・北原欽治氏から寄せられたアピール文が紹介された。新宿連絡会、渋谷のじれん、大阪の仲間などから連帯発言が続き、日雇全協各支部の仲間から釜ヶ崎、寿日、笹日、日、山谷争議団それぞれから、闘いの報告と決意表明がなされた。集会の最後に、朝日建設争議を全国の力で闘い、日雇全協の原点である国際主義を鮮明に反排除・反失業・自衛隊のイラク派兵反対の闘いを盛り上げていくことの提起がなされ全員でシュプレヒコール、デモに出発した。デモは山谷地域を機動隊の不当な規制をはねのけ戦闘的に闘い抜かれた。デモ解散後、屋内会場朝日建設争議の中間報告集会と交流会が行われて終了となった。



1.18日雇全協反失業総決起集会。山谷地域をデモする全国の隊列。



山谷越冬闘争。拠点のセンター前で夕食の炊き出しに並ぶ労働者。



1月2日、映画「山谷」をセンター前で上映。山谷争議団の故・南さんの演説シーン。